

宿泊学習で 福島の仮設住宅訪問

東海南中学校1年生が宿泊学習の際に、福島県会津若松の仮設住宅と猪苗代町の子ども園にて除雪ボランティアを行いました。東海南中学校では宿泊学習にてボランティアを実施するのは初めての試み。3日間の学習には子ども達195人が参加しました。スキー学習の後に伺った、福島にての子ども達の様子をご紹介致します。



子ども達の力であつという間に雪かきが進みました。



たくさん並ぶ仮設住宅には、大熊町の方が暮らしています。



強い吹雪の中での雪かきは初めての体験でした。

宿泊学習のテーマは「考えよう 出来ることを 自分のために 周りのために」。何か自分達に出来ることはないだろうかと除雪ボランティアを企画した1年生達。大熊町の方をお招きし、雪の怖さや大変さ、震災についての事前研修を実施してから現地を訪れました。



歌を歌う口にも雪が入ってしまい、歌うのが大変でした。



ちょっとだけ遊んでもいいよね♪



子ども園とふた手に分かれて活動しました。

齋藤衣莉乃さんは仮設住宅に伺いました。「すごく吹雪いていて、積もった雪は1m20cmぐらいありました。大熊町の方が「ボランティアだけでなく、仮設住宅に住む高齢の方と話をして欲しい。」と言っていました。当日は吹雪だったので住宅の窓からたくさんの高齢の方が私達の作業の様子を見ていたのが印象的でした。」



猪苗代教育委員会教育長さんより感謝状を頂きました。



子ども園では、子ども達からプレゼントを頂きました。



大きな雪だるまつくってね~^^

子ども園担当の島剛輝さんは「今までテレビで見ていた除雪はとても大変でした。毎日やっているこの地域の方の大変さがよく解りました。雪には大変な事もあることを知ることが出来、貴重な体験が出来ました。」

仮設住宅に住む大熊町の方の地域は雪の少ない地域です。震災から2年の月日が流れても、仮設住宅の生活が続いています。大熊町の方は「土が見えないと落ち着かない。普段は朝から夕方まで雪かきをしている。子ども達の力はすごい！ありがたかった」とお話を頂きました。雪のない地域の方が雪国で暮らすことは、私達の想像する以上に大変なことなのでしょう。

子ども達は、スキー学習の楽しさと、雪の大変さを学ぶことが出来た宿泊学習になったようです。テーマであった「自分に出来ること」。1人1人の力がきっと周りの方にも伝わったことでしょう。